

(様式1)

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を語りあげている</p>	<p>「入居者ひとりひとりの尊厳を大切にします」という理念に基づき、ユニットごとに処遇目標をつくり、スタッフルームに掲載している。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>運営方針や目標を、年度始め、入社時、会議の際に確認している。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>パンフレットに載せ、入居申し込みの際、見学会の際には配布し理念に基づいてケアに取り組んでいることを説明している。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>散歩時の挨拶や声かけ、近所の方が子供を連れ立って立ち寄り、お話会のボランティアとの交流などのお付き合いが出来ている。地域活動としてのゴミ拾いや草取りも実施している。</p>	<p>今後は地域活動・紙芝居等に計画し地域の中の施設ではなく、地域の中の憩いの場としての役割を目標に努力していく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>研修計画に加え、実施していくようにしていきたい。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>継続性が必要なために今後も努力していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>改善計画に取り掛かり始めのために継続して行っていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16</p> <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>普段からユニット間で入居者・スタッフが行事や通院時等行き来できるようにし、異動や離職があっても安心して過ごせるよう配慮している。</p>		
<p><b>5.人材の育成と支援</b></p>			
<p>17</p> <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所内研修は年間計画を立てて実施している。また外部研修や個々で資格を取得する機会を推進している。</p>		
<p>18</p> <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の同業者が開催する勉強会・研修会に参加をし、地域のサービスの質をはなしあったり、相互に情報交換を行うなどしている。</p>		
<p>19</p> <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>有給休暇の設定、休憩室の設置をする事で、職員のストレスの軽減に努めている。</p>		
<p>20</p> <p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員個々の能力・資格、勤務状況の確認(入職時)を行い、本人の能力が生かせるような勤務状況、勤務配置を行い、向上心を持って働けるよう運営者は配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居に至るまで、本人・家族との話し合いは管理者が訪問し話を聞く機会を状況によって応じるようにしている。</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人・家族にどのようなニーズがあるのか判断し、早急に必要と思われるサービスは紹介したりする事も行うようにしている。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居するに際し、自宅で使用していた、食器・寝具等馴染みのあるものを日常生活で使用できるようご家族にも協力いただいて環境に配慮できるようにしている。</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>漬物の漬け方を入居者から聞いて行ったり、畑の耕し方、野菜の苗上の時期を聞きながら一緒に作業したり、食事と一緒に摂り一方的な交流にならないよう支援できるようにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事・誕生日にはご家族にも参加協力いただき、ご家族の足が遠のかず、一緒に楽しんだり出来るよう配慮している。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人・家族との交流が途切れないよう、面会の機会を設けていただけるよう家族への連絡は行うようにしている。面会の際にもなるべく安心した状況で面会していただけるよう、生活での状況報告を行うなどしている。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日課の中で近所を散歩したり、受診の際に住んでいた場所の近辺をドライブしたりしている。馴染みの人に関しては家族を通して関係が継続できるようには対応はしているものの、中々協力を得られる機会が少なく、さらなる努力が必要。		
28 利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士関係を築けない方に関しては、スタッフを通して他の入居者との関わりが持てるよう支援している。		
29 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も、相談・助言は常に行うようにしている。又、サービス利用が必要な時は関係機関との連絡橋渡しも行うようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前の生活が継続して出来るよう、ご家族より情報を聴衆したり、入居者の状況に合わせた暮らしの環境が提供できるように配慮している。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前にはどのような生活を送りサービスを利用しながら生活していたのか、家族・ケアマネージャー等から情報を得られるようにしている。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>入居者の過ごし方に役割を持って生活できるように配慮したり、体調の変化に対応できるようその方の心身の状況を把握し個々にあった生活が送れるようにしている。</p>	
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>定期的に、利用者・家族より要望を聞き取り、アセスメントをし、ケアプランを作成している。入居時は家族の意向の比重が大きいですが、生活していく中での入居者のニーズに沿って計画が作成できるようにしている。</p>	<p>今後の取り組みとしてケアプランの書式の見直しを行っていく予定。</p>
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>三ヶ月毎のアセスメントの見直し、ご本人・ご家族からのニーズの聴衆は随時行い介護計画書に生かせるよう作成している。それ以外でも計画書に見直しが必要であればその都度行うよう取り組んでいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録の中で継続性の必要なもの、経過観察が必要なもの等色分けし記入しながら記録し情報の共有できるように体制作ると共に、問題・ニーズはケアプランに反映できるようにしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
36 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時々々に応じて支援できるよう体制は整えている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
37 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の行事に参加し、本人が地域に暮らしていることを理解し生活できるよう関係機関の支援を働きかけるようには出来ている。		
38 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向がサービスに反映されるよう、本人・家族・ケアマネジャー・サービス提供事業者と話し合いを持つ機会を十分に設け、チームの担い手としてサービス提供に参加できるような体制はとっている。		
39 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入退居に際し、本人・家族、地域包括支援センターの担当者を含め話し合いを持つようにし、本人・家族の生活や権利の意向に沿えるよう話し合いを持ったり、情報交換をするようにしながら支援している。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望・意向を尊重しかかりつけ医への定期的な受診をしながらかかりつけ医にはご本人の経過説明を行い緊急時や夜間も連絡が取れる体制にしている。		
41 認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医以外での認知症での診断が再度必要な場合にはかかりつけ医に相談助言を求め認知症専門医と連携し支援してもらえるようにするとともに、経過にはその都度ご家族も同席するか状況報告をする事。認知症以外にも心身の状況に変化のある場合についても適切な治療が行ってもらえるよう関わりを行うようにしている。		
42 看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	非常勤看護師を配置する事で、入居者の健康管理・医療活用が継続して提供されるよう看護師とケアスタッフが連携をとり日々支援するようにしている。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者の入院に際し、病院の相談員と密に情報交換を図るようにし、入居者の入院生活に不安の無いよう必要な連携は図れるように対応している。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所側での出来る範囲の支援をご家族・かかりつけ医に説明し理解された上で、今後の方針を随時情報交換しながら支援していくようにしている。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所側での支援の限界(施設で出来ること・出来ないこと)は、かかりつけ医・ご家族にもその都度説明している。かかりつけ医に関しては今後の支援への助言を家族や施設側に行っていただけのように取り組んでいただけよう説明し、変化に際し迅速に連携対応ができるよう情報交換は行うようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46</p> <p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>住み替えによる混乱を防ぐために、ケアマネージャー(在宅)やサービス提供事業所から情報交換や情報提供を行い、サービス利用や住み替えが混乱のないよう支援させていただいている。</p>		
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p><b>1.その人らしい暮らしの支援</b></p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>47</p> <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシー・個人の尊重がどのスタッフも行えるよう、損なうことのないよう職員の教育を徹底して行うようにし、問題と思われる事の無いよう管理者・経営者がその都度対応している。個人の情報に関してはプライバシー保護できるよう記録等は保管管理をしている。</p>		
<p>48</p> <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人の理解力を判断し、積極的な発言が出来るよう働きかけをし、日々の生活で思いや希望が自発的に行動に移せるよう配慮はしている。(散歩・外出・歩行訓練・掃除・食器洗い等)</p>		
<p>49</p> <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>最低限のケアは入居者の生活のペースに混乱を生じさせないよう取り計らい、入居者の生活のペースを乱さず混乱させないよう支援している。(朝はゆっくり起きる方、入浴は一番風呂でないと入らない、食事後の団欒等)</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50</p> <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>入居者・家族より希望や意向を伺い、個々の希望に添えるよう支援している。(スタッフが毛染めをする。散髪に出かける。訪問美容師での対応等)</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好き嫌いの確認はご家族よりその都度行っている。食材の下ごしらえ、後片付け等は入居者の状況にあった活動に誘導・促して参加できるよう支援は行っている。		
52 本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好に関してはかかりつけ医・ご家族に確認し許可が出ている方に関しては晩酌・おやつの買い物などで対応している。		
53 気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄状況を経過的に観察し、個々の排泄状況にあった支援は行っている為、それぞれにトイレ誘導やオムツ交換の時間が違っている。(トイレ誘導・おむつ交換)		
54 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴の対応はしている。入浴できるか昼食後にご本人と話し好きな曜日に好きな順番で入浴できるよう支援している。		
55 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居前にご本人の生活パターンをご家族やサービス提供事業所、ケアマネージャーより情報収集し事業所側の日課に合わせることを無いう、休息は日課の中でも取れるよう支援は行っている。又心身の状況の変化や年齢等様々の要因で一定の休息が必要と思われる方に関しては随時休息できるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意な事、生活歴を情報収集し、事業所の生活の中でも継続し無理の無いよう参加できるよう支援している。(食材の注文書書き、外食・ドライブ・農作業・漬物作り・手芸等)		


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理に関しては入居に際し、本人・家族より意向を伺いお小遣いの所持・施設管理・両方選べるようにしている。又買い物や外食に関してもスタッフが支払うのではなく、支払いが出来る方に関しては支払い、おつりとレシートの受け取りまで行えるよう支援している。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	好きな時に外出や散歩が出来るよう支援している。		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月の行事や誕生日等ではご家族にも参加促しをする機会を設けると共に、個別(誕生日)・普段いけない所(りんご狩り・さくらんぼ狩り等)に行く機会は設けている。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望・家族の了承を得てかけたい時の電話、手紙のやり取りはご本人の状況に合わせて行えるよう支援体制はとっている。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や馴染みの人が面会に訪れた際は、居室や共有スペースで、気兼ねなく談話できるよう対応している。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どういった支援が身体拘束につながるのか入職した職員には指導係が徹底して指導するようにしている。身体拘束に関する研修会も行うようにしている。		今後も継続して取り組んでいく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	スタッフ間で入居者の所在や様子を確認しあい、安全に配慮し、玄関には日中から施錠をしないよう支援している。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個々の所在の確認・夜間の居室の見回りを定時で行うようにし、安全面には配慮している。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品を入居者と取り扱うときは、必ずスタッフが付き添い、取り扱いを見守るか、介助をするようにしている。保管場所も高いところで扉の中に収納しておく等をし、直接危険が及ばないよう工夫はしている。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の認知・心身の状況においての事故のリスクは担当者会議で話し合い、事故防止に取り組む事は出来ている。		事故を細分化した知識の習得には至っていない為、知識を収集できる機会を設ける事にも努力したい。
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	入職した年(年1回)に地域の消防署で行われる救急救命士の講習には参加し資格を取ることにしており、初期対応の訓練は入職時の研修で行うようにしている。		
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の非難訓練を実施し、地域の人々への協力の働きかけは行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	個々の心身の状況把握を行い、心身の状況に関して予測されるリスクをスタッフ間で話し合い対応を行うことで配慮している。家族には、リスクと対応策は説明し抑圧しない方法での生活支援はしていくも、リスクに関しての理解は得られるよう説明対応は(心身の状況変化時には)行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個々のバイタル測定は毎日行い、体調の変化を見逃さないよう身体状況の観察は随時スタッフが行えるようにしている。又異変の発見が出来るよう職員の教育も研修で行い、異変や急変があれば管理者・看護師に速やかに連絡、対応するようにしている。継続的な状況の観察については申し送りを行い24時間観察・情報交換できるよう記録の掲載も行っている。		
71 服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更や用途・用法が変更になった場合には、看護師・管理者より伝達し、服薬内容も理解できるように説明書は随時カルテに保管しスタッフも閲覧できるようにしている。又副作用・急変時(低血糖症状等)の症状の理解はすべてのスタッフが出来るよう看護師から申し送りや情報伝達は行っているようにしている。		
72 便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便傾向を観察・食事内容も食物繊維が取れるように工夫したり、水分は随時設けるよう工夫している。運動に関しても生活リハビリで適度に身体を動かすようケアプランで個々に組み込んでいる。		
73 口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	本人の能力に応じ出来ないところは、声かけや介助で口腔内の清潔が保てるよう毎食スタッフが関わりながら行っている。又その方に応じた対応(口腔内清拭・義歯洗浄・準備のみ・見守り)をその方の能力に合わせて行うよう支援している。		
74 栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量低下傾向にある時は捕食として食事時間以外でも食事量が保てるようおにぎりにしたり、おやつ時間で栄養を補えるようおやつを工夫をしたりするよう栄養士に相談しながら行うようにしている。一日を通して摂取量の傾向と適切な量の観察を行い不足していると思われるときは申し送りをし24時間で対応できるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についての注意や予防の張り紙をトイレ等に掲示し、常時気を配って支援できるよう看護師とも協力体制をとりながら支援している。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	栄養士を各ユニットに配置し、衛生面・食材の管理に関しては注意や指導が出来るようにし、食中毒予防には十分配慮するようにしている。又好きな時にお茶が飲めるようにも配慮している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	表が中からでも見えるようにし、近所の方が来やすいようウッドデッキで談話したり、散歩で談話できるようにしている。又花壇を入居者と整備する事で和みやすく、訪問しやすいようになる事業所であるよう努力は行っている。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感がわかるよう飾りつけを行ったり、音や光でくつろげない空間にならないようにし、転倒や事故につながらないよう住環境には配慮している。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル・ソファ・小上がりをそれぞれに配置し、好きなように好きな方と談話したり出来るよう居場所の工夫は行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた布団・枕・テレビ・タンス等なるべく生活環境に変化をきたさない程度でご家族に協力いただきながら個室環境は整えるように努力はしている。</p>		
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>毎朝環境整備を行い、においよどみが滞らないよう努力は行っている。温度調整にしても、個々の快適温度を考慮し室内温度には注意しながら支援している。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>家庭的な雰囲気を生かしバリアフリーでの生活環境で個々の入居者が身体の不自由を感じないよう生活できるよう配慮している。</p>		
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>場所(トイレ・居室)の認知が出来るように工夫をしたり、スタッフがその都度対応したりし、混乱や失敗につながらないよう支援は行っている。</p>		
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>自由に事業所内やウッドデッキなど生活空間の行き来できるようにし、活動しやすい様になっている。</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)